

秋のミニ運動会



ホームでは、10月8日体育の日に『秋のミニ運動会』を行いました。運動会と言っても走るような事は出来ないで、恒例となった玉入れとパン食い競争を行っています。まずはウォーミングアップのラジオ体操をしています。日頃からラジオ体操は取り組んでいます。競技が始まると夢中で中腰で玉を拾い、次々と投げていました。「玉ちょうだい!」「ぶつけちゃうかもよー」と向かいの方に冗談を言ったりされていました。競技を締め切るとカゴに玉が山盛りで、

みんなで声を出して数えていくと、なんと113対112の僅差!結果Aユニットの優勝となりました。パン食い競争も大変盛り上がり「ホラホラそこ!」「入れ歯はすさないでよー」「頑張て!」のかけ声の中、ひもにぶら下がったパンをなかなか取る事が出来ず、口を大きく開けた必死の表情を見て、お腹をかかえて笑っている方、涙を流して大笑いされている方、声をこらえ肩をゆらしている方もいて、その姿にまた笑いの渦が起っていました。思う存分笑い、体を動かしたあとは、おやつに自分で取ったあんパンを食べました。苦勞して獲得したこともあり格別だったようで「こんな美味しいの初めて!」と大好評でした。

幼稚園児との交流会



また今年も10月12日、19日と旭川藤幼稚園の園児が、私たちの心を和ませてくれました。2回とも年長さんのクラスがきて、お遊戯や歌を披露しています。そのかわいことかわいこと、「あんな時もあったんだよ」といいながら、みなさんとてもいい笑顔です。入居者様は、前方で行う歌や踊りの出し物を観たり、自分の目の前で手を取り直にふれあいながら歌を聴く機会もあり、純真な子供たちとの時間に目を輝かせてお

りました。最後に園児からの手作りのプレゼントをもらって、もう満面の笑みです。入居者様からはただただ「ありがとう」「うれしい」などの感謝の言葉しか出ません。小さな子供たちの魅力は大したものです。

高校生との交流会



10月13日、26日で1年生全員が1ラウンド目の交流会を完了いたしました。第一ラウンドは、おじさんおばあさんと生徒さんが一緒に風船ゲームや歌を歌い交流を行い、互いの距離を縮めてまいりました。帰りの際の入居者様からの挨拶も「どうもありがとうございました。とても楽しかったです。」とどの方もとてもいい笑顔で言っていました。11月からの第二ラウンドは、学生さんが日本昔話の劇を見せてくれるそうです。入居者様にこの話をすると「へー、楽しみだね!」とニコッとされておりました。

さんのそば打ち



10月30日に、2階のさんの息子さんのさんが、また埼玉からそばを打ちに来てくれました。この日のメニューは、かき揚げそばとデザートの特とーナッツです。ニンジン、ごぼう、サクラエビ、サツマイモ、レンコンを千切りにして、ころもをつけて揚げて、そばの上に乗せると、秋の紅葉をイメージした温かおそばの出来上がりです。デザートの特とーナッツは、単純に小麦粉や卵等を混ぜてーナツの形に切り取り、揚げて砂糖をまぶした昔懐かしのシンプルなものです。入居者様もお手伝いいただき「懐

かしいけどむずかしい!」と言いつつも丁寧な作られ、また揚げてたのでとてもおいしくいただきました。さんがそばを打っていると「いつもおいしいの作ってくれてありがとう」と言われる方や、そば打ちをのそきながら「昔よく作ったよ」とシミジミ言われる方もありました。そばができて、スタッフに「お前これ多いから半分食ってくれ」「私は種類ダメなの」と言っていた方も含めて「うまい!」と全員完食しています。さん、奥様のさん、本当に有り難うございました。

夜間想定避難訓練

10月も夜間想定火災避難訓練を、3日、5日、10日、13日、26日の5回行っています。これでフタッフ全員が一通りの手順を自分たち自身の体で体験したり、周りのスタッフがやっている手順を何回も見ながら、火災または災害に備える心構えと考える機会を各自が持てたように感じます。



秋の火災避難訓練

10月31日秋の火災避難訓練を行いました。消防設備業者より、火災報知器、スプリンクラー、緊急通報システムの機器仕様説明を聞き、火災報知機のボタンを実際に押してベルを鳴らし、どこで火災が発生しているかを確認してベルを止めることを勤務者全員で行いました。その後、一階キッチンより出火した想定で火災避難訓練、避難後は、消火器による消火訓練を実施しました。この訓練は日中を想定し、火災発生→初期消火→初期消火失敗後火災報知器にて消防署通報→連絡網に従い緊急通報、同時進行で入居者

様の避難を実施しております。春と秋は、地域の方にも連絡網に従い電話を入れ、早い方で3分30秒後には花に到着しています。駆けつけていただいた方には、到着後に入居者様の見守りについていただいています。連絡網は、当事者の火災現場職員より施設長に連絡が入り、施設長から町内会長、運営推進委員長、家族会会長、包括支援センターに通報、花を支援の輪で取り囲むことができるように協力体制を整えております。今回の入居者様全員の避難にかかった時間は13分20秒でした。

施設長コラム

先日、小坂憲司先生の講演を聞いてまいりました。小坂先生は、1976年以降の一連の研究にて、世界で初めてレビー小体型認知症について明らかにした、認知症の世界ではとても有名な先生です。認知症患者は、アルツハイマー型50%、脳血管型20%、レビー小体型

20%の割合だといわれており、この認知症は幻視などを伴うせん妄が起こりやすく、お薬の調整が難しいのが特徴の認知症です。しかし介護上の対応やお薬をうまく合わせながら本人の心を癒していくと、本当に穏やかな状態を保つことができます。花にもレビー小体型認知症の入居者様がおります

が、幻視はとてリアルに本人には見えるようです。実際に入居者様が言われた言葉には「虫がいっぱいいる」「部屋にカラスが何羽もいる」「犬がいるので退って」など色々ありましたが、もし自分がレビー小体型認知症になり、急に幻視が起こったと仮定すると、とても落ち着いていれるものではないと感じられます。これからも入居者様のために勉強を重ね、根拠のある介護、認知症の方の心を察して差し上げられる介護を目指して、花の運営に取り組んで参ります。<参考>小坂憲司著書「認知症はこまごま治る・防げる」 「知っていますか?レビー小体型認知症」 「レビー小体型認知症の臨床」 「認知症の防ぎと介護のコツ」など

